# チャペル・アワー案内

2015年12月1日
No.230

同志社大学
キリスト教文化センター

京田辺
0774-65-7370
今出川
075-251-3320

## 熊本キャンプ ～ Doshisha Spirit Tour ～

**キリスト教文化センターでは、同志社を見つめ、そして自らを省みる2泊3日のプログラム〝熊本キャンプ ～ Doshisha Spirit Tour ～〟を2015年9月9日から11日に実施しました。**

**今年で7回目となる熊本キャンプでは、熊本洋学校の教師であったジェーンズ邸、徳富記念園や「奉教趣意書」に署名してキリスト教結社を誓った花岡山など、創設期の同志社に学び、新島襄とともに同志社を支えた「熊本バンド」ゆかりの地を訪問しました。キャンプに参加した学生16名の感想を紹介します。**

◆プログラム準備で協力するうちに、自らの成長を感じた。交流会は緊張したが、校友会の皆さんにも好評で、メンバーと達成感を分かち合えた。

◆事前準備、キャンプ期間を通じ、多くの人と話せたことがとても嬉しかった。仲良くなったころにはもう最終日で、とても短く感じた。

◆入学前から「熊本」「安中・会津」「函館」キャンプに参加すると決めていた。学生の奨学支援をしているＯＢの方の「人にしたことは、その後、何倍にもなって返ってくる」との言葉が心に残った。

◆充実したプログラムで熊本バンドについて理解でき、同志社の素晴らしさを実感。この大学の学生であることを、改めて誇りに思う。

◆実際に訪れることで熊本の歴史に関する理解も深まり、熊本バンドと同志社の関係を学ぶ役に立った。

◆ジェーンズ邸が改修工事のためにしばらくの間公開を中止すると聞き、今回のキャンプに参加しておいてよかったと思った。

◆初めて出会った人たちとの旅に不安を感じていたが、互いに能動的に交流すれば親しくなれると感じた。今回のメンバーとは今後も親しい関係を続けたい。

◆熊本洋学校等の歴史を学べてよかった。見学先での案内・解説により、京都にいるだけでは知りえない情報を得て、知識を深めることができた。

◆開校当時の、熱い思いに満ちた多くの人たちの活躍により、現在の同志社がある。彼らの理念に応える人物になれるように日々努力していきたい。

◆書物やインターネットなど、情報に触れる手段はいくつもあるが、実際に「見て」「感じる」ことの重要性を熊本に来て再認識した。

◆キャンプのプログラムを通じてキリスト教への理解は次第に深まった。このような学びは重要だと思う。

◆熊本という土地の温かささながらの大きな志をもって激動の時代を歩んできた人びとの熱意が、訪問した各地で感じられた。また、ジェーンズが熊本と深く関わり、県民の大きな誇りであるように思えた。

◆グループのプログラムには、期待と不安があったが、素晴らしいメンバー各々の頑張りと協力で成功できたことが、今回のキャンプで最もよかった。

◆熊本での教育、食・農の改革など、ジェーンズについてさまざまな角度から知識を得たうえに、その信仰についても校友会の方と語るという、私にはジェーンズ色の強いキャンプだった。

◆多くの人びとの熱心な取り組みで発展した伝統ある同志社大学に進学してよかったと改めて思った。

◆現代において、熊本バンドの学生たちのような強い志をもつことは難しいが、今回のキャンプは、社会を変えるために何かができるかも、と深く考えるきっかけとなった。

## お知らせ

**○第26回同志社京田辺クリスマス燭火讃美礼拝**
日時：12月12日(土)16：00 開場　16：30 開始
会場：同志社新島記念講堂
（京田辺校地　同志社女子大学構内）

各行事の詳細は、ＨＰまたはキリスト教文化センター掲示板のポスター等をご覧ください。
オリジナルホームページ http://www.christian-center.jp/

**○クリスマス・イブ礼拝**
今出川校地　12月24日(木)18：30 ～ 20：00
会場：同志社礼拝堂
※同志社教会のクリスマス・イブ礼拝と共同開催
京田辺校地　12月24日(木)16：40 ～ 17：30
会場：同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂

＊京田辺校地のクリスマス・イブ礼拝を一緒に作っていく学生スタッフを募集中です。
ご協力いただける方はキリスト教文化センター京田辺事務室（TEL：0774－65－7370）までご連絡ください。

「Merry Christmas」　切り絵　中谷隆志

秋学期チャペル・アワー統一テーマ

### 「見よ、わたしはあなたと共にいる。」

（創世記28章15節より）

「南の海の底に小さな魚の恋人たちがおりました。（中略）―こんな広い海の中、君に出会えてなんて僕は幸せなんだ（中略）二匹は運悪く捕らえられてしまいました。（中略）―大好きな君といつも一緒にいられてなんて僕は幸せなんだ（後略）」（佐藤雅彦『プチ哲学』中央公論社　２００４年）

この世には環境によって左右される価値というものがあります。かき氷は夏場でこそ売れますが、冬にはまず買う人はいません。そのように環境によって価値が変動するものが身の周りには多いと思います。

しかし時折、環境や条件によっても左右されないものがあります。それが先ほどの二匹の魚の例です。「愛」というものは目には見えませんが、環境や条件によって左右されない、不変なものの一つでしょう。

ヤコブは夢のなかで「天にまで達する階段」を見ました。そこでヤコブは「わたしはあなたと共にいる」という、神との愛の繋がりを知ったのでした。これはその後の彼にとっての「不変」なものとなりました。私たちも人生に何か不変なものをもつことは素晴らしいことではないでしょうか。

（キリスト教文化センター非常勤スタッフ
日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師　渡辺　圭一郎）

◎2015年度春学期から京田辺校地のチャペル・アワーは同志社京田辺会堂　言館（KOTOBA-KAN）礼拝堂で行われ、京田辺火曜ランチタイム・チャペル・アワーが新しく始まり、京田辺水曜チャペル・アワーの時間が変更になっています。

## 京田辺校地

### 火曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂　言館礼拝堂　毎火曜日12時35分～13時

| 月／日 | 奨励者 |
|---|---|
| 12／1 | 日本キリスト教団石橋教会牧師　アドベント礼拝　仲程愛美 |
| 12／8 | 日本キリスト教団千里聖愛教会牧師　アドベント礼拝　川江友二 |
| 12／15 | 日本キリスト教団奈良教会牧師　アドベント礼拝　栗原宏介 |
| 12／22 | キリスト教文化センター助教　アドベント礼拝　三木メイ |
| 1／12 | 日本キリスト教団東神戸教会牧師　横山順一 |
| 1／19 | 日本キリスト教団千里聖愛教会牧師　川江友二 |
| 1／26 | 日本キリスト教団石橋教会牧師　仲程愛美 |

### 水曜チャペル・アワー

同志社京田辺会堂　言館礼拝堂　毎水曜日15時～15時45分

| 月／日 | 奨励者 |
|---|---|
| 12／2 | 日本聖公会奈良基督教会牧師　アドベント礼拝　井田泉 |
| 12／9 | キリスト教文化センター助教　アドベント礼拝　三木メイ |
| 12／16 | 日本キリスト教団上鳥羽教会牧師　アドベント礼拝　月下星志 |
| 12／23 | 日本キリスト教団大津東教会牧師　アドベント礼拝　関雅人 |
| 1／6 | 日本パブテスト連盟医療団チャプレン　宮川裕美子 |
| 1／13 | 関西NGO協議会提言専門委員　加藤良太 |
| 1／20 | ヴォーリズ記念病院チャプレン　安部勉 |

### 金曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂　言館礼拝堂　毎金曜日12時35分～13時

| 月／日 | 奨励者 |
|---|---|
| 12／4 | 日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師　アドベント礼拝　小笠原純 |
| 12／11 | キリスト教文化センター助教　アドベント礼拝　三木メイ |
| 12／18 | 日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師　アドベント礼拝　渡辺圭一郎 |
| 1／8 | 日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師　小笠原純 |
| 1／15 | 日本キリスト教団大和郡山教会牧師　尾島信之 |
| 1／22 | 日本キリスト教団宇治教会副牧師　大塚泰恵 |
| ※1／27 | キリスト教文化センター助教　三木メイ |

## 今出川校地

### 火曜チャペル・アワー

神学館礼拝堂　毎火曜日17時30分～18時10分

| 月／日 | 奨励者 |
|---|---|
| 12／1 | 日本キリスト教団膳所教会牧師　アドベント礼拝　大山修司 |
| 12／8 | 神学部教授　アドベント礼拝　三宅威仁 |
| 12／15 | アドベント礼拝　学生企画 |
| 12／22 | アドベント礼拝　学生企画 |
| 1／12 | キリスト教文化センター教授　越川弘英 |
| 1／19 | 音楽礼拝（同志社教職員合唱団） |
| 1／26 | 京都大学教授　芦名定道 |

### 水曜チャペル・アワー

クラーク・チャペル　毎水曜日10時45分～11時30分

| 月／日 | 奨励者 |
|---|---|
| 12／2 | 神学部・文学部嘱託講師　アドベント礼拝　岡嵜隆哲 |
| 12／9 | アドラムキリスト教会牧師　アドベント礼拝　野田詠氏 |
| 12／16 | 研究開発推進機構特別任用助教　アドベント礼拝　大澤香 |
| 12／23 | キリスト教文化センター所長　アドベント礼拝　石川立 |
| 1／6 | 日本キリスト教団塚口教会牧師　沖村裕史 |
| 1／13 | 日本キリスト教団牧師　堀江有里 |
| 1／20 | グローバル地域文化学部准教授　小野文生 |

### 金曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社礼拝堂　毎金曜日12時35分～13時

| 月／日 | 奨励者 |
|---|---|
| 12／4 | 神学部准教授　アドベント礼拝　村山盛葦 |
| 12／11 | キリスト教文化センター教授　アドベント礼拝　越川弘英 |
| 12／18 | 日本キリスト教団同志社教会牧師　アドベント礼拝　望月修治 |
| 1／8 | 神学部准教授　村山盛葦 |
| 1／15 | 日本キリスト教団牧師　藤浪敦子 |
| 1／22 | 日本キリスト教団上鳥羽教会牧師　月下星志 |
| ※1／27 | キリスト教文化センター教授　越川弘英 |

※1／27（水）は金曜日の振替授業日のため、金曜ランチタイム・チャペル・アワーとして行います。

エッセイ

# 『考えるということ』

吉田　優子

15歳のころ、初めて「放蕩息子のたとえ話」（ルカによる福音書15章33節）に出会い、どうも気になったまま数十年が経ち、機会あるごとにこのたとえ話の解釈を人に尋ねながらも、未だに考え続けるなかで、いろいろな気づきをもらってきた。

このたとえ話では二人息子のうち、弟が財産の分け前を早々に父親から受け取り、すべて金に換えて旅に出る。遠方で放蕩の限りを尽くし、食べるものにも困って父親の元に戻り、なんと、歓待を受け、その兄は機嫌を損ねてしまうという結末。もちろん「父」の愛、というものを教わり、私の心が動いたのは確かだが、兄の立場と気持ちの行方ばかりが気になった。兄は真面目に父親の農場の仕事をし、子羊一匹、宴会で楽しむことも許されていなかったのに、父親はこの弟の帰郷祝いには太らせた牛を一頭供するという、不公平な扱いに私自身は納得がいかなかった。

20代は、ずっとロンドン大学の院で学び働くうちに、世界各地から来る人たちの社会観・価値観に触れた。また、紛争で幼いころに家を奪われてしまった友人や内戦で親が負傷した友人のいろいろな話を聞くうちに、自分も含め、たまたまある地域に生まれたことによって「普通」には想像のつかないような経験をするものだ、と考えさせられ、そもそも人生に公平さを求めること自体、無理なことに気づかされた。日々の苦労はあっても、平穏に暮らせていたこの「兄」はやはり幸いだったのだろう。

私も留学中の苦しいとき、偶然にも出会うことになった人たちがいなかったらどうなっていたやら。今もどれだけの人たちとの出会いに触発され、支えられていることか。敵をも愛せという隣人愛はやはり実行が難しいが、「敵」は自分を育ててくれ、「味方」は心の安定をくれるものだと今は思う。放蕩の弟には「良い」隣人がいなくて、兄には父親をはじめ、「良い」隣人がいたのではないか。悲しいことに、人は傍にあるものが空気のような存在になってしまい、その存在の意味も考えない。不在者というものが不思議な価値をもつのも確かなようだ。

生きていく上で答えのない問題に直面することは多い。学生たちにもいつも答えのない問いを与え、考える過程の大切さを力説している。自分で考えないと納得のいく良い解決は得られない。きっとこのたとえ話のことを私はまだこの先も考え続け、考えを変えていくのだろう。しかし何よりも、自分で考えることの肝要さを教わったような気がしている。

（よしだ・ゆうこ＝グローバル・コミュニケーション学部准教授）